

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-019

PDCA	事務事業名	公共交通対策事業	部課等名	総務部 防災交通課 交通防犯担当	担当	浅井		
					内線等	286		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節： 第2節 都市基盤の整備						
		基本施策： 3. 交通体系						
		単位施策： (5) 公共交通の充実						
	根拠法令等	半田市公共交通会議設置要綱						
	対象・目的	少子高齢化や単身世帯増加など、時代背景から予測される移動重要の高まりを見据え、市民のくらしの足の維持確保を目的に地域公共交通の整備と利用促進に努める。						
	目的を達成するための手段・活動内容	市民の移動時手段の一つとして、公共交通バスの運行を維持確保する。地区路線バス「ごんくる」3路線の運行と市内乗合事業者の運行する基幹路線バスへの運行経費等補助を実施するとともに、利便性の確保のため、運行に関する環境整備や情報発信を図る。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位	
		①補助対象路線数		5	5	5	路線	
		②市民アンケート等ニーズ調査		2,073	1,319	1,545	人	
		③地域における話し合いの場		18	10	36	回	
		事業費		45,563	83,450	89,034	千円	
		人件費		4,162	5,226	5,793	千円	
		総事業費		49,725	88,676	94,827	千円	
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位	
		①補助対象路線利用者1人当たりにかかる市費投入額		377.6	327.0	212.1	円/人	
	②半田市民1人当たりにかかる市費投入額		418.0	698.7	790.9	円/人		
	成 果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位	
		①バス利用者数	実績値	-	924.5	#####	人/日	
			目標値	-	1,158	1,600		
			実績値					
目標値								
		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響		大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
		B						
		平成29年度に策定した「半田市地域公共交通網形成計画」に基づき、平成30年10月に大幅再編を実施した路線バスの1年間の実証運行を経て、低調解消のための路線改善や、遅延解消のためのダイヤ改正を実施し、バス環境の向上・利用促進に努めた。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進						
		既存路線については、利用を促進すべく、バスロケーションシステムの運用やインターネット上の民間媒体への情報露出、バス停整備による環境の改善を図る。 また、交通空白地域における新規路線については、岩滑地区での地区路線Bの導入と、他地区での導入準備を進める。						
	令和2年度の目標	成果指標		目標値	単位			
		①バス利用者数		1,700	人/日			